

科技高 いきもの記

Vol.17 2020.12.18

岩本ひなの

ミクロな世界のかわいい!?やつ 横十間川のプランクトン



↑横十間川で採集したヤムシの一種。顎毛と呼ばれるアゴが特徴的で、「毛顎動物門」というグループに属す。



↑横十間川のプランクトンたち

お久しぶりです。教育実習生の岩本ひなのです。11月に教育実習でお世話になりました。現在は静岡にある大学に戻り、毎日プランクトンの研究を進めています。今回は特別にこのいきもの記を担当します。

11月21、25日に3年生の授業で学校前の横十間川、小名木川にてプランクトン調査を行いました。今回発見されたプランクトンはカイアシ類、ノープリウス幼生（カイアシ類やフジツボ、エビ・カニの幼生）、ゴカイのネクトケータ幼生、ヤムシ類でした。淡水のプランクトンは発見できず、**海水性のプランクトンのみが観察できました**。横十間川は旧中川、墨田川から水が流入している河川で、横十間川の水は海水の半分ほどの塩分が含まれているからでしょうか。

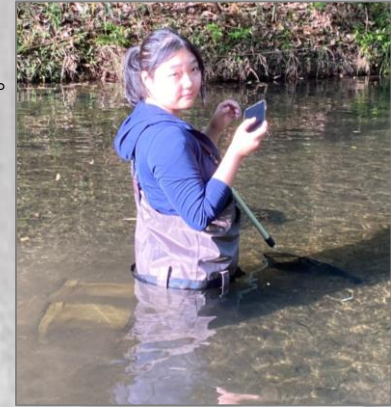
プランクトンとは、『水中で浮遊する生物』という意味で、特定の生物分類を指す言葉ではありません（陸上生物、みたいな意味です。）水中に生息して泳ぐ力が非常に弱かったり、無い生物の総称です。（魚のように泳げる生物はネクトン、カニなどのように水底に生きる生物をベントスと呼びます）海のプランクトンはカイアシ類、ヤムシ類、アミ類、オキアミ類、クラゲ、その他さまざまな生き物の幼生が知られています。**1mを超える大型クラゲもプランクトンです**。特に今回の調査でも多く見られたカイアシ類は、どこの海域でも多く、種類も多様です。色々な生物の餌になっているため「海のお米」とも呼ばれています。

左上の写真は今回横十間川で採集したヤムシの写真です。ヤムシは私の研究対象で、半透明な体に見合わず獍猛で肉食のプランクトンです。矢のように見えるから矢虫という名前が付きました。研究室に戻り、種類を調べてみたのですが、確信をもってこの種類だ！とはわかりませんでした。プランクトンの種類を見分けるのは難しいんです。カタヤムシという仲間か、ミジンヤムシという小型かつ内湾性のヤムシの可能性が高いです…。ヤムシは海にしか生息していない上に、プランクトンで2番目に多い生物ですが、その生態はほぼわかりません。どうやって子供を産んで、どうやって成長しているのかもほぼわかってません。体に生えている毛で水流を感知して、餌を丸呑み！深海にいるヤムシは3~5cmもある大型の種類もいます。

カイアシ類に次いで多くみられたゴカイの幼生について調べたところ、スピオ科のゴカイであることがわかりました。スピオ科のゴカイは小さめの種類が多く、きれいでない水域を好むそうです。**種類から生息環境が推定しやすいのもプランクトンの面白い点です**。

プランクトンは海や川の生態系で非常に重要な役割をしています。ですが、生態などに関してはまだまだ分からないことだらけ！研究しがいのある生物です。大学の研究室では色々な地点、時間でプランクトンを採集して、間接的に生態や生活史を調べています。例えば、同じ場所で夜と昼で採集を行って、夜の方が数が多いから、この種は夜になるとここに集まる習性があるのかな？などを調べています。研究以外にも海や川で、胴長靴を着て生き物を採取！周りの人に自分のまだ知らない生物のことを教えてもらえたりして、楽しいです。

高校ではクラゲの飼育や、課題研究でプランクトンを採集したり、フィールドワークに参加したりしていました。あまり今と変わっていませんね。特にフィールドワークでは機会に恵まれ、**神奈川県真鶴にある横浜国立大学の臨海研究所でプランクトン観察をさせていただき、この道へ進むことを決意しました**。フィールドワークには是非参加してみてください。本当に沢山の出会いがあります！



↑趣味で川へ採集しに行った時（途中で魚に飽きてオニヤンマを取ったりしていた）